

特殊詐欺の認知状況（令和3年1月中）

～約1,260万円被害の架空料金請求詐欺を認知～

1 県内の特殊詐欺の認知状況（令和3年1月中）

- 被害認知件数は**3件**（前年同月比+3件）
- 被害額は**約1,458万円**（前年同月比+約1,458万円）
- 手口は
 - ・ギャンブル詐欺～1件
 - ・架空料金請求詐欺～2件



2 県内で発生した特殊詐欺被害（令和3年1月中）

1月中は、特殊詐欺被害を3件認知しました。

架空料金請求詐欺被害2件のうち1件は、『もってこいネットワーク通信第2号』でお知らせした事案で、長崎市内居住の70歳代女性の自宅に、県警防災コールセンター職員などを装う者から次々に電話があり、これをきっかけとして約1,260万円をだまし取られる被害に遭いました。

携帯電話が主な通信手段となった現代ですが、高齢者を狙った詐欺被害は後を絶たず、その多くが突然、固定電話にかかってくる1本の電話から始まります。被害者は、ひとたびだまされると自分が詐欺被害に遭っていることに気付くことは困難であり、犯人から言葉巧みに要求されるがまま、多額の金銭をだまし取られます。少しでも不審・不安に思った場合は、早めの相談で被害を防ぎましょう。

～犯人と通話しないための対策～

- 電話をかけてきた相手に対し、自動で「通話を録音します」とメッセージを流す迷惑電話防止機能の付いた電話機及び周辺機器を設置する。
- 在宅時でも留守番電話に設定し、心当たりのない番号からの電話には出ない。

3 被害状況など

～被害者の年齢・性別構成～

年齢	令和3年1月末(人)		
	男性	女性	計
0～19	-	-	-
20～29	-	1	1
30～39	-	-	-
40～49	-	-	-
50～59	-	-	-
60～64	1	-	1
65～69	-	-	-
70～79	-	1	1
80～89	-	-	-
90～	-	-	-
合計	1	2	3
うち65歳以上の高齢者	-	1	1

～特殊詐欺全体の被害金交付形態～

交付形態	令和3年1月末 件数
振込型 (犯人が指定する口座に振り込ませる)	2
現金手交型 (犯人が直接現金を受け取る)	1
現金送付型 (郵便や宅配便などで現金を送らせる)	-
電子マネー型(コンビニで電子マネーを購入させる)	-
キャッシュカード手交型	-
収納代行利用型(コンビニ決済)	-
キャッシュカード窃取型	-
合計	3